

平成30年度事業報告（神戸みらい学習室）

1. 学習会事業

（1）学園都市校の開校（神戸市西区：西部拠点）

- ① 2年目（1年目は8月開校だったため初の通年実施）
（支援対象に中1，2生を拡大（昨年度は中3のみ））
- ② 場所：大学共同利用施設 UNITY 2階301室
（神戸市営地下鉄学園都市駅すぐ）
- ③ 主なスケジュール
4月22日（日）受講生説明会 保護者・受講生参加
5月6日（日）開講（受講生13名）
以降、毎週日曜日午後13時半～16時半に実施（全46回）
- ④ 年度末時点の参加者数
 - ・受講生数 29名（3年13名、2年9名、1年5名、高12名）
 - ・講師数 19名（神戸外大6名、兵庫県大4名、神戸市看護大1名、
神大3名、京大1名、関学大1名、社会人3名）
 - ・スタッフ数 6名（神戸市職員5名、八尾市職員1名）
- ⑤ 進学実績 公立推薦3名、私立6名、公立一般2名、定時制2名



（2）本山校の開校（神戸市東灘区：東部拠点）

- ① 1年目（8月開設）
- ② 場所：コープは～とらんどハイム本山1階地域交流室
（JR神戸線摂津本山駅徒歩8分）
- ③ 主なスケジュール
8月6日（日）受講生説明会 保護者・受講生参加
8月6日（日）開講（受講生9名）
以降、毎週日曜日午後13時半～16時半に実施（全33回）
- ④ 年度末時点の参加者数
 - ・受講生数 8名（3年2名、2年2名、1年4名）
 - ・講師数 11名（甲南大4名、関学大1人、関大1人、神戸女子大
1人、甲南女子大1人、大阪工業大1人、大和大学
1人、社会人1人ほか） ※複数回以上参加者のみ
 - ・スタッフ数 10名（神戸市職員1名、兵庫県職員1名、コープこうべ
職員8人）
- ⑤ 進学実績 公立一般1名、公立推薦1名



(3) 教育の充実の取り組み

- ①夢ゼミ（大学生が中学生に、海外留学体験や大学生活等をプレゼン）
・学園都市校で4名の大学生が発表（11月、12月、1月）
- ②受講生ごとのカルテ、学習記録シートの導入
- ③学校テスト結果提出を義務化（弱点を把握し、指導上配慮）
- ④推薦入試対策として、論文指導、模擬面接
- ⑤保護者面談（12月）



(4) イベント

- ①納涼会（8月）／ごちそう村／受講生・保護者（23名）、大学生・スタッフ等（14名）
- ②新年会（1月）／居心伝／大学生・スタッフ（31名）。来賓：久元喜造神戸市長。
- ③卒業式（3月）／ジョルオーネ／卒業生・保護者（27名）、大学生・スタッフ等（28名）



2. 情報発信の取り組み（団体ホームページ、フェイスブックページ開設等）

①HP) <https://www.kobemirai.com>

（作成委託：ワーキングラボ。11月末 開設）



②FBページ) 神戸みらい学習室

（12月 開設）

③団体リーフレット) デザイン作成（3月）※印刷・製本は平成31年度予定。

3. 財源確保等の取り組み

（1）一般財団法人大吉財団との覚書締結（4月）

・運営資金及びイベント支援、運営アドバイス等

（2）赤い羽根共同福祉基金との協定締結（4月）

・平成30年度助成金の採択

（3）寄付募集

・ホームページ上に、継続寄付（コングラント）、都度寄付（ジンドウ）、直接振込の3パターンを設けた。

・平成30年度寄付金は、7件、111,000円。

（4）株式会社ゼロフォームから卒業式の無料招待を受けた（ジョルオーネ）。

4. 神戸市や他団体との連携等

（1）神戸市学習支援連絡協議会の発足

10月13日（土）設立シンポジウムの開催

・神戸市中央区、勤労会館にて

・市内学習支援7団体による。約80名の参加。

・後援：神戸市、神戸市社会福祉協議会

・支援：赤い羽根共同福祉基金、一般財団法人大吉財団

・運営委託：NPO法人 しゃらく（6月委託契約）

・神戸新聞9月29日朝刊、読売新聞10月28日朝刊に関連記事掲載



（2）神戸市子育て応援団

・子育て応援団登録（12月）※市ホームページへの掲載及びステッカー交付

(3) 神戸市ソーシャルブリッジ事業への参画と貢献

- ・ 1 WEEK プログラム（7月21日～28日）
- ・ ステップアップツアー（1WEEK プログラム報告会）（9月1日：三宮スペースアルファ）
- ・ 神戸ソーシャルブリッジフォーラム（2月9日：新長田勤労市民センター）



(4) コープこうべとの連携

- ・ 本山校の会場提供、及びスタッフ支援
- ・ 本山校受講生募集チラシの無料戸配（7月）
- ・ コープこうべ組合員向け広報誌「きょうどう」掲載取材（掲載は平成31年4月）

(5) 後援

- ・ 兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会（2月）

5. 平成30年度の主な成果と平成31年度課題

(1) 学園都市校では、中学生全学年に対象を拡大した。1年目に比べ、受講生数が増加したが、カルテ導入等により、次週講師に引き継ぎながらの指導体制を確立した。学習以外に夢ゼミを企画し、中学生のアンケート結果を見ても反響が大きい。

一方で、把握を始めたテスト結果等をどう指導に活かしていくか等は着手したばかりであり、教育充実の取り組みは改善の余地が大きい。

(2) 本山校では、コープこうべとの連携により会場・スタッフ確保が実現し、予定を前倒し、8月開校ができた。大学生・受講生募集等の広報も同社の全面的な協力を得ることができ、今後の事業拡大の一つのモデルと期待される。

ただし、毎回の学習会において参加受講生・講師が若干名ずつという状況が続き、年度末に出席者が5名程度と安定してきた段階にあるため、今後、運営の安定化が課題である。

(3) 財源確保の取り組みでは、平成30年度は、一般財団法人大吉財団との連携の協議が整い、資金・運営面で幅広い支援を受けた。さらに、赤い羽根共同福祉基金の大規模な助成金を獲得でき、事業拡大の前倒しや、ホームページ作成等の情報発信強化につながった。

しかし、後者は平成30年度限りであり、安定した運営体制確保のためには寄付金等の自主財源を増やす取り組みが喫緊の課題となっている。ホームページやFBページ等を活用し、戦略的な団体広報の展開を模索する。

(4) 市内他団体との連携では、当団体が呼びかけ、主要7団体から構成される協議会を発足することができた。

今後、大学生の研鑽やモチベーションアップに資する取り組みや、団体間の棲み分けや連携を円滑に進めるための取り組みを具体化していくことが求められる。